

# 第4学年 国語科学習指導案

指導者 西 瑞 穂

- I 単元名 場面の様子に着目して読み、しょうかいしよう  
 中心学習材 一つの花（光村 四上）  
 補助学習材 平和について書かれた本

## II 単元の指導構想

### 1 学習指導要領に示されている指導目標及び内容

第3学年及び第4学年の「C 読むこと」の指導目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる」ことである。

### 2 教材について

本単元は、「C 読むこと」の「ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」「オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付くこと」を重点的な指導事項とする。そのために、言語活動例「エ 紹介したい本を取り上げて説明すること」をより具現化し、「平和について書かれた本の紹介文を書く」という言語活動を設定する。

具体的には、平和について書かれた本の中から「物語のある言葉に作者が特別に意味を込めている」作品を並行読書で読み、その中から友達に紹介したい本について紹介カードに書きまとめる言語活動を位置付ける。紹介カードの形式は様々なものが考えられるが、子どもたちのこれまでの学習経験と付けた力をもとに、次のような構成要素で書きまとめさせていく。

#### 紹介カードの構成要素

- ① あらすじ
- ② 作品のよさを表す特別な言葉
- ③ 心に響いた文と選んだ理由

### 3 子どもについて

子どもたちはこれまでの文学的文章の学習において、印象に残った場面を中心にしながら感想文を書いたり、好きな登場人物を紹介する文章を書いたりする言語活動に取り組んできた。これらの学習を通して子どもたちは、登場人物の会話や行動に着目しながら登場人物の性格をとらえて読む力が少しずつ身に付いてきている。

しかし、平成26年度実施の学力調査の結果から「読むこと」領域では、場面の様子に気を付けながら情景などを読む力に弱さが見られた。また、授業における子どもたちの様子から、叙述を基に場面の移り変わりに注意しながら地の文や行動、会話などを関連的にとらえていくことに難しさを感じている子どももいる。

以上のことから、場面の移り変わりに気を付けながら、情景などについて叙述を基にして想像して読む力を高めていく必要がある。

#### 【既習の力】

- 文章を要約する力 … ①あらすじ

#### 【言語活動を通して付けた力】

- 情景などについて叙述を基に想像して読む力… ②作品のよさを表す特別な言葉
- ③心に響いた文と選んだ理由

### 4 復興教育（3つの教育的価値）との関連

- (1) 生命の大切さや心のあり方について【いきる】「①かけがえのない生命」とのかかわり  
 「一つの花」や「平和について書かれた本」を読んだり、紹介するカードを書いたりすることを通して、自分や家族、周囲の人々の生命はかけがえのないものであると感じ取り、命を大切にする気持ちをもつことができるようにする。
- (2) 人のきずなの大切さについて【かかわる】「⑧家族きずな」とのかかわり  
 「一つの花」を読み、まだ幼いゆみ子に対する父母の思いや願いを考えることによって、家族とは、安心して生きていくための生活の基盤となるものであることや家族の一員である喜びを実感できるようにする。

### Ⅲ 単元の指導計画

#### 1 目標

- (1) **関心・意欲・態度**  
作品の特徴をとらえながら読んだり，作品のよさを伝えるために紹介カードを進んで書いたりしている。
- (2) **読むこと**  
場面の移り変わりに注意しながら情景などについて叙述を基に想像しながら読むことができる。(Cウ)  
物語を読んで感じたことを発表し合い，一人一人の感じ方の違いに気付くことができる。(Cオ)
- (3) **伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項**  
言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。(イ (ア))

#### 2 評価規準

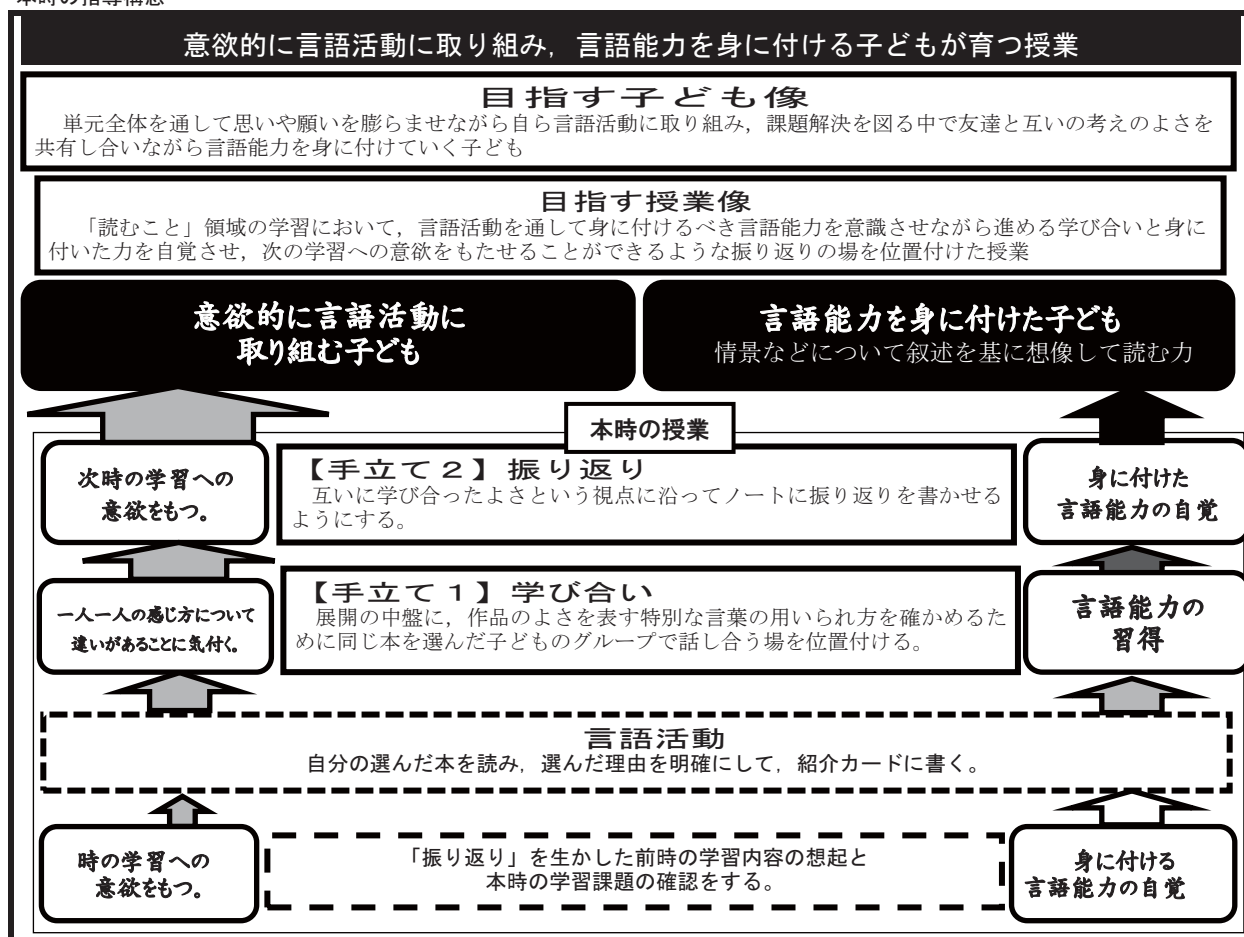
- (1) **国語への関心・意欲・態度**  
①作品のよさを紹介するために，作品の特徴に注意して読み，改めて味わったり，作品のよさに気付いたりしながら読もうとしている。
- (2) **読む能力**  
②作品の特徴をあらわす象徴的な言葉や題名，場面の移り変わりに注意しながら叙述を基に想像して読んでいる。  
③作品の特徴について考えたことを交流し，一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。
- (3) **言語についての知識・理解・技能**  
④言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いて「一つの花」や自分の選んだ本を読んでいる。

#### 3 指導計画 (全11時間)

次	時	主な学習活動	「学び合い」□□と「振り返り」□□のポイントと内容	指導上の留意点と評価
一	1	○「平和について書かれた本を読み，しょうかいしよう」という単元の学習のめあてをもつ。 ○「一つの花」の範読を聞き，感想を発表する。 ○学習計画を立て，単元の学習の見通しをもつ。		・平和について書かれた本の出版総数を確かめ，平和について書かれた本をもっと読みたいという思いを引き出す。 ・教師が読み聞かせをしたり紹介をしたりして，紹介したいという思いを膨らませる。 【評価①】
	「平和について書かれた本」を読み，友達にしょうかいしよう。			
	2	○関連図書の中から自分が読みたい本を決める。		・本を決めることが難しい子どもには，物語の中の分からない言葉を補足説明したり，読んだ感想を聞いたりして，読みたい本を選べるようにする。 【評価②】
二	3	○作品のよさを紹介するために「一つの花」を読み，物語のあらすじを書く。	「展開の中盤で，あらすじをまとめるためにグループの話し合いを位置付ける。」 あらすじのまとめ方を視点として与えて振り返りをさせる。	・「時」「場所」「登場人物」「出来事」など物語の設定について確かめ，あらすじを書く際に生かせるようにする。 ・学び合いでは，あらすじについて話し合ったことが可視化されるようくま手チャートを用いて考えさせる。【評価②】
	4	○作品のよさを紹介するために「一つの花」を読み，特別な言葉をとらえ，作品の特徴を書く。	「展開の後半の場面で，題名の意味を考えるためにグループの話し合いを位置付ける。」 「一つ」「花」の意味を視点として与えて振り返りをさせる。	・場面の様子と父親の行動や会話文を関連付けながら物語の情景などを想像して読み，「一つ」「花」が表している意味を考えさせる。 ・学び合いでは，題名のもつ意味についてウェブマップを用いて考えさせ，物語の特徴をとらえさせる。 【評価④】
	5	○作品のよさを紹介するために「一つの花」を読み，心に響いた文とその理由を書く。	「展開の中盤の場面で，特別な言葉の用いられ方を確かめるためにグループの話し合いを位置付ける。」 心に響いた文を書いた理由を視点として与えて振り返りをさせる。	・学び合いでは，選んだ理由を出し合い，友達の考えのよさをとり入れたり助言したりして，選んだ理由を明確にとらえさせる。 ・出し合ったことが可視化されるよう付箋を用いる。 【評価②】
	6	○紹介カードを読み合い，感想を伝える。 ○自分の選んだ本を用いた学習への見通しをもつ。	「一つの花」紹介カードの取り組み方という視点を与えて振り返りをさせる。	・感想を伝え合い，紹介内容が伝わった実感を得させる。 ・自分の選んだ本にも作品の特徴があるか取り上げ，次の学習への見通しをもたせる。 【評価③】
三	7	○作品のよさを紹介するため，自分の選んだ本を読み，物語のあらすじを書く。	「展開の中盤の場面で，あらすじをまとめるためにグループの話し合いを位置付ける。」 あらすじのまとめ方という視点を与えて振り返りをさせる。	・物語の設定について確かめ，あらすじを書く際に生かせるようにする。 ・学び合いでは，話し合ったことが可視化されるようくま手チャートを用いて考えさせる。 【評価②】

8	○作品のよさを紹介するため自分の選んだ本を読み、特別な言葉をとらえ作品の特徴を書く。	展開の中盤の場面で、作品の特徴を表す特別な言葉の意味を確かめるためにグループの話し合いを位置付ける。 作品の特徴を表す言葉の意味を視点として与えて振り返りをさせる。	・場面の様子や登場人物の行動や会話文を関連付けながら物語の情景などを想像して読み、特別な言葉が表している意味について考えさせる。 ・学び合いでは、特別な言葉が表す意味についてウェビングマップを用いて確かめさせ、作品の特徴をとらえさせる。【評価②】
9 本時	○作品のよさを紹介するために、自分の選んだ本を読み、心に響いた文とその理由を書く。	展開の中盤の場面で、作品のよさを表す特別な言葉の用いられ方を確かめるためにグループの話し合いを位置付ける。 心に響いた文を書いた理由を視点として与えて振り返りをさせる。	・学び合いでは、選んだ理由を出し合い、友達の考えのよさをとり入れたり助言したりして、選んだ理由を明確にとらえさせる。 ・出し合ったことが可視化されるよう付箋を用いる。【評価②】
10	○紹介カードを読み合い、感想を伝え合う。	紹介カードの取り組み方を視点として振り返りをさせる。	・感想を伝え合うことで、紹介内容が伝わった実感を得させる。【評価③】
11	○単元の学習を通して、身に付いた力を確かめる。	本単元の学習を通してできるようになったことを視として単元の学習を振り返らせる。	・単元の振り返りがしやすいように、学習で用いた紹介カードや掲示を用意する。【評価①】

#### IV 本時の指導構想



#### V 本時の指導計画

- 1 目標  
作品のよさを紹介するため、心に響いた文と選んだ理由を明らかにして、紹介カードに書くことができる。
- 2 評価規準

B	努力を要する子どもへの支援
作品の特別な言葉から心に響いた文を決め、作品のよさを理由に挙げながら紹介カードに書いている。	教師と一緒に自分が選んだ文の基になっている登場人物の行動や会話に着目させながら場面の様子を想像させ、選んだ理由を考えることができるようにする。

3 展開

段階	学習活動	時間	研究にかかわる手立て	指導上の留意点と評価	
導入	1 前時の学習内容を振り返る。	1	○本時の学習への意欲化を図るために、前の時間の振り返りや紹介カードを活用しながら行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで、紹介カードを書き進めてきていることと前時は作品の特別な言葉を書いたことを確かめる。</li> </ul>	
	2 本時の学習課題を確認する。	2			
心に響いた文を選び、選んだ理由を書こう。					
展開	3 心に響いた文を決める。 (1) 特別な言葉を基にして、心に響いた文を決め、選んだ理由を考える。  (2) 選んだ理由を発表し合い自分の理由を明確にする。	7  20	【手立て1】学び合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が選んだ文が物語のどの場面にあるか分かるように本に付箋を貼らせる。</li> <li>どう書いていいか困っている気持ちや友達の書いた理由を知りたい気持ち引き出し、話合いの必要感をもたせる。</li> <li>理由をレベルアップするための観点として①場面の様子②作品のよさを表す特別な言葉の意味③自分の感想の三つを書くことを共通確認する。</li> </ul>	
	同じ本を選んだ友達と話し合い、選んだ理由をレベルアップさせましょう。				
	4 選んだ理由を紹介カードに書く。	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時に用いた表を用いて、心に響いた文がどの場面であるかグループごとに確認させる。</li> <li>○付箋を用いて、自分が選んだ文に特別な言葉がどのようにかかっているか出し合わせることで作品のよさについて話し合わせていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ本を選んだ子ども達でグループを作り、選んだ理由を話し合わせる。</li> <li>話し合うことができずに困っている子どもには、友達の話を聞いて誰の理由に近いのか考えながら聞くように助言する。</li> <li>紹介カードに選んだ理由を書くことが難しい子には、具体的な書き方を例示し書くことができるようにする。</li> </ul>	
場面の移り変わりに注意しながら情景などを想像して読み、作品のよさにふれて選んだ理由を紹介カードに書いている。 【紹介カード】					
終末	5 本時の学習を振り返る。	7	【手立て2】振り返り		
	選んだ理由を書くためには、何に気を付けて読むといいかワークシートに書きましょう。				
			○振り返りをワークシートに書かせ、本時の学習を通して身に付けた力を自覚させたり、次時の学習への意欲を高めたりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>紹介カードを作るため、作品のよさにふれながら選んだ理由を書けた子どもの発表を取り上げ、全体に広げることにより、身に付けた言語能力の自覚化を促す。</li> </ul>	
	6 次時の学習の見通しをもつ。	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>次時は、紹介カードを読み合い感想を伝え合うことを確認する。</li> </ul>	